

國學院大學 北海道短期大学部 学報

発行所
國學院大學
北海道短期大学部
〒073-0014
北海道滝川市
文京町三丁目1番1号
TEL
0125-23-4111(代)

学長に就任して

「人生は人や仕事との
出会いによって創られる」



学長
平野 泰樹

本年四月一日、田村弘前学長の後任として学長に就任しました。その折、二つのことを抱負として述べました。

第一に、学長は教学の責任者ですから、先ずなすべきは教学の強化、つまり時代に即したカリキュラムの整備と教員による良質な教育の実践です。教育の成果を示せなければ、社会からその存在意義が問われることとなります。学生に対して、時代が求める学修成果を得られる教育を提供する責務があります。現在、國學院大學の二十一世紀研究教育計画(第四次)において、本学も教学強化のプロジェクトを推進しているところですので。

卒業後の進路対策として

は、進学と就職に対応するサポート体制を整備しています。とりわけ進学については、本学の三分の二の学生が國學院大學に編入学していくことから、授業外の指導も重視し個別指導や面談を日常的に行っています。

第二に、本学は滝川市をはじめとする五市五町の誘致を受けて設立された短期大学ですから、地域との連携強化を前進させるとともに、地域社会の生涯学習やリカレント教育を一層進めていきたいと考えています。

最後に、学生の皆さんには、勉学を通して考える力を培い、地域の人々とも大いに交流し、サークル活動やボランティア活動を通して沢山の友人や仲間を得ることを切に望みます。人生は、人や仕事との出会いによって創られ彩られていきます。本学で過ごす一日一日が、皆さんの青春の貴重な一頁となることを願っています。

平成三十一年度 入学式

二百十七名が入学

平成三十一年度入学式(第三十八回)が、四月十日に本学体育館で挙行され、二百十七名が入学しました。

今年の入学者は、国文学科八十五名、総合教養学科八十五名、幼児・児童教育学科四十七名で、出身高校所在地別で北海道出身が二七・六パーセントの六十名となり、七割以上の学生が北海道外出身者となりました。

今年度学長に就任した平野新学長は、國學院大學の歴史と目指すもの「建学の精神」について紹介され、短大部で学ぶこと「地域との交流」について新入生に式辞を述べました。

続いて、来賓の滝川市長前田康吉様、父母会会長林孔美様より祝辞をいただきました。新入生を代表して国文学科大浦穂香さん(滝川西高等学校卒)が、「より深い知識を身につけ、何事にも積極的に取り組む大学生活をおくり、國學院大學北海道短期大学部の学生に恥じぬよう一層気を引き締

め、自覚と誇りを持ち建学の精神を大切にし学則を守り、多くの仲間と共に勉学に励みます」と宣誓しました。

式典終了後には、本学総合教養学科牧野多聞教授が、「知識と知恵、常識と教養」と題して記念講演を行いました。

また、式典終了後恒例となつています「ウェルカムパーティー」では、一人暮らしをサポートしてくださる大家さんを中心となり、学生ホールにて入学生と父母教職員にカレーがふるまわれました。



国文学科
佐々木 風花

短大に入学してから約半年がたちました。高校時代とは違った授業の仕組みや、一人暮らしに、最初は戸惑いもありました。近くに頼れる大人がいらないことが一番の不安でしたが、一緒にごはんを食べたり、おしゃべりをしたりしてくる友達ができ、今では一人暮らしを満喫しています。



総合教養学科
高洲 仁

この大学に入学してから約六ヶ月が経ちました。最初は不安がありましたが大学生活と一人暮らしにようやく慣れてきました。入学時に、初めて滝川に訪れたときは、これからの大学生活に加えて知らない土地での初めての一人暮らしの不安で軽くホームシックになっていました。

しかし、今では多くの友達に恵まれ、苦しい時もありますがそれでも毎日楽しく充実した大学生活を送っています。大学の講義は高校までの授業とは違い、自分が学びたい分野について進んで学ぶことができます。そのため自分が

す。方言を指摘しあったり、まったく違った文化に驚いたり、色々な場所から学生が集まる大学ならではの楽しさを満喫しています。

高校とは違い、九十分という長い授業に、はじめのうちはへとへとになっていましたが、講義に興味を持つ余裕も出てきて、九十分の授業にも慣れてきました。短大の学びは、今までの学びとは違い、小説や物語を読むだけではなく、できた背景、作者のことなど、より深く学ぶことができ、また今まで興味のなかった分

将来就きたい職業と同じような志望を持つ人と友達になることができます。

また、大学の講義は専門的なことについても学ぶので難しく感じる面もあります。そのため、最初は講義についていけるのが不安でしたが、たとえわからないことがあっても友達と一緒に考えて解決するなどしてなんとかつまずくことなく講義を快適に受けることができました。

私は関東圏の大学に通わず北海道で一人暮らしをして大学に通っています。これは、全国的に見たらとても貴重な体験ではないのかと考えています。だから、私はこの北海道に滞在するこの二年間を就職試験時の面接などに質問されたときに誇れるような充実した大学生活を送っていきたくと考えています。

野も、自分の知識が広がっているのかと、楽しく学ぶことができています。

サークル活動では、女子バスケットボール部に入部し、初心者なので不安もありましたが、先輩たちも優しく、同年の仲間にも恵まれ、とても楽しく充実した時間を送っています。二年という短い時間ですが、短大でたくさんの方とを学んで、経験して、滝川で過ごす時間をいいものにできるように後期も励んでいきたいと思っています。

幼児・児童教育学科
児童教育コース
溝口 廉太郎

私はこの半年間であること
を実感しました。それは、一人
では生きられないということ
です。一人暮らしをしている
のに一人では生きられないと
いうのは少々頼りない発言か
もしれませんが本当のこと
です。まず、私は親の仕送りが無
ければ生活できません。家事
も分らないことばかりで親
や友達に聞きながらようやく
少しずつ慣れてきました。大
学生活でも先生方の手厚いサ
ポートや実践的な授業、共に
学ぶ友人達のおかげで毎日楽
しく学ぶことができ、もっと
学びたいと思うようになりました。
またこの秋、多くの
方々の支援のおかげでスプリ
ングフィールド大学での短期
研修にも参加させていただき
ました。

地元に住んでいた時に親や
友人、地域に支えられて生き
ているというのは正直意識す
らしていなかったと思いま
す。しかしここでの生活の中
で徐々に意識し、実感へと変
わっていききました。こんな当
たり前のことをようやく実感
したことに自分でも呆れてし
まいますが今は地元にいる家
族、友人、ここへ出会った
方々、地域の方々への感謝の
気持ちでいっぱいです。

幼児・児童教育学科
幼児保育コース
大野 鮎香

これからは支えて貰うだけ
ではなく自分も誰かを支えら
れるように、支えて頂いてい
る方々へ少しでも恩返しが出
来るように、全力で学び成長
していこうと思います。

入学して半年がたった今、
最初は不安しかなかった私で
したが、学校にも慣れ、友達も
増えとても楽しく充実した大
学生活を送っています。授業
は、保育士や幼稚園教諭にな
るための専門的な勉強が中心
なので、楽しく感じて慣れて
はきましたが、高校とは違っ
て一コマが長く、集中するの
がとても大変です。そして、運
動や遊びを通じて実践的な指
導方法を学ぶ授業や保育英語
での発表など、恥じらいを捨て
ないといけないことが私の
目標だと思いました。

8月には、短大に入って最
初の試験という事もありまし
たが、友達と助け合って勉強
したりなど、とにかく単位を
修得するべく必死になりました。
周りの友達のおかげで、
「自分も頑張らなきゃ」と勝手
に励まされていました。一緒に
支えあって実習や試験などを
共に頑張っていたらいい
なと思いました。

令和元年度 特待生・奨学生決定

幼児保育コースでは、他学
科と関わる機会がとても少な
く、入学当初のいろんな人と
関わるという私の目標が全然
達成できていないので、もっ
ともしっかりという機会が増え
ればいいなと思っています。
また、サークルでのボラン
ティア活動にも全然参加でき
ていないので、もっと参加で
きるようにしたいなと思っ
ています。もっというんなこと
に挑戦していき、経験値をた
くさん増やしていきたいと
思っています。

五月九日、特待生・奨学生の
証書授与式が、学長をはじめ
関係する教職員出席のもと理
事室にて行われました。

特待生は、健康にして学業
人物ともに最優秀な二年生を
対象に各学科一名、奨学生は、
健康にして学業人物ともに優
秀な二年生を対象に各学科か
ら二名が選ばれました。

平野学長から各学科の特待
生・奨学生の一人ひとりに証
書が授与されました。

特待生・奨学生の授与対象
者は先のとおりです。

○特待生【国文学科】屋神紀
信(長野県・飯田風越高等学
校)【総合教養学科】宮本結衣
(鳥取県・米子西高等学校)【幼
児・児童教育学科】石川友理
(高等学校卒業程度認定試験)

家主会が渋谷キャンパスで編入学生と意見交換

○奨学生【国文学科】月岡さ
やか(千葉県・千葉日本大学第
一高校)田代史弥(佐賀県・到
遠館高等学校)【総合教養学
科】松本葵(新潟県・新潟中央
高等学校)持増岳翔(千葉県・
八千代松陰高等学校)【幼児・
児童教育学科】山下慎太郎(神
奈川県・横浜高等学校)明杖瑞
紀(北海道星槎国際高等学校)

本短期大学部学生の暮らし
の安心と安全を支えていた
でいる家主連絡協議会(以
下「家主会」)の長野英己会長
をはじめ七名の役員が、國學
院大学の渋谷とたまプラーザ
のキャンパスを初めて見学・
視察した。

十月九日、若木タワー五階
で佐柳理事長と大村常務理事
を表敬訪問した。佐柳理事長

令和二年度 入試について

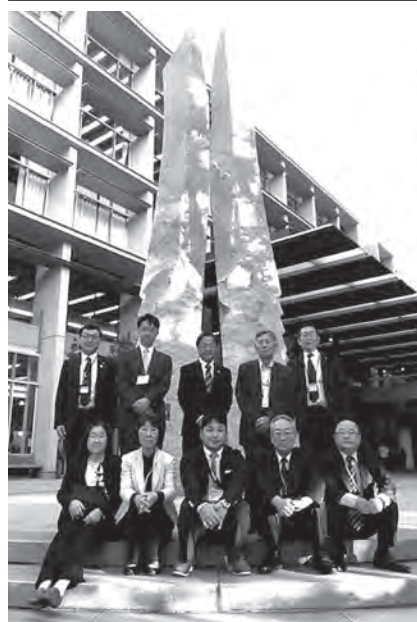
令和二年度入学試験要項が
確定しました。前年度からの
変更点は次の通りです。

①入学定員数を国文学科八
十五名、総合教養学科八十五
名、幼児・児童教育学科幼児保
育コース三十名、児童教育コー
ス二十五名に変更します。

②「特別指定校制学校推薦」
の推薦基準を変更します。国文
学科は、国語のみ(現代文・古文・

は、日頃より短期大学部並び
に学生がお世話になっ
て感謝を述べた。家主会
からは箱根駅伝激励の寄付金
の贈呈とアパートのWi-Fi
設備の拡充と無料化に努
力する旨の報告がなされた。

短期大学部から編入学した
「滝川会」の学生との懇談が開
催され、率直な意見交換のな
かで、学生の成長した姿に感
動されていた様子だった。
翌日は、改修工事を終えた
ばかりのたまプラーザキャン
パスに足を延ばし、運動施設
など、改めて充実した施設を
つぶさに視察し、編入学を目
指す学生への多くののお土産話
を胸に帰路についた。



漢文含む)が三・五以上。総合教
養学科は、評定平均値が三・三以
上。幼児・児童教育学科(両コー
ス含む)は、評定平均値が三・〇
以上。

③「指定校制学校推薦」の推
薦基準を変更します。全ての学
科において、面接(口頭試問)試
験を行います。国文学科は、国語
のみ(現代文・古文・漢文含む)が
三・三以上。総合教養学科は、評
定平均値が三・二以上。幼児・児
童教育学科(両コース含む)は、
評定平均値が三・〇以上。

④「大学入試センター利用入試」

の選択科目について、国文学科で
は、古文・漢文が選択出来ます。

⑤「國學院大學併願型入試」
において、第三期・第四期に
「北海道枠」を設けます。

⑥「自己推薦V期」を廃止し
ます。

⑦「ありす会特別入試」第三
期を廃止します。

⑧「法人傘下校対象特別選
抜入試」第四期・第五期を廃止
します。

⑨出願期間並びに入学手続
き期間を書類必着に変更しま
す。昨年度の入試実態に合わ
せ、大きく変更しております。

入学試験日程・選考会場

入試方式			出願期間	選考日	合格発表日	入学手続期間	選考会場	
短期大学部の入試	推薦入試	高等学校長推薦	特別指定校制学校推薦 第Ⅰ期	令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	本学 札幌
			特別指定校制学校推薦 第Ⅱ期	令和元年11月18日(月)～ 11月29日(金)願書必着	令和元年12月7日(土)	令和元年12月16日(月)	令和元年12月17日(火)～ 12月25日(水) 書類必着	國學院大學(東京)
			特別指定校制学校推薦 第Ⅲ期	令和元年12月24日(火)～ 令和2年1月17日(金)願書必着	令和2年1月25日(土)	令和2年2月3日(月)	令和2年2月4日(火)～ 2月12日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
			指定校制学校推薦 第Ⅰ期	令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	本学 札幌
			指定校制学校推薦 第Ⅱ期	令和元年12月24日(火)～ 令和2年1月17日(金)願書必着	令和2年1月25日(土)	令和2年2月3日(月)	令和2年2月4日(火)～ 2月12日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
			公募制学校推薦	令和元年11月18日(月)～ 11月29日(金)願書必着	令和元年12月7日(土)	令和元年12月16日(月)	令和元年12月17日(火)～ 12月25日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
		自己推薦	自己推薦 第Ⅰ期	令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	本学・札幌 國學院大學(東京)
			自己推薦 第Ⅱ期	令和元年11月18日(月)～ 11月29日(金)願書必着	令和元年12月7日(土)	令和元年12月16日(月)	令和元年12月17日(火)～ 12月25日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
			自己推薦 第Ⅲ期	令和元年12月24日(火)～ 令和2年1月17日(金)願書必着	令和2年1月25日(土)	令和2年2月3日(月)	令和2年2月4日(火)～ 2月12日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
			自己推薦 第Ⅳ期	令和2年3月2日(月)～ 3月13日(金)願書必着	令和2年3月17日(火)	令和2年3月21日(土)	令和2年3月23日(月)～ 3月27日(金) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
	豊かな地域創生人材養成奨学制度入試			令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	本学
	日本語に関する基礎知識を問う入試			令和2年2月17日(月)～ 2月25日(火)願書必着	令和2年2月29日(土)	令和2年3月5日(木)	令和2年3月6日(金)～ 3月13日(金) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
	特別入試	社会人	社会人特別入試 第Ⅰ期 (社会人入学者奨学生第一種対応)	令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	本学
			社会人特別入試 第Ⅱ期 (社会人入学者奨学生第二種対応)	令和元年12月24日(火)～ 令和2年1月17日(金)願書必着	令和2年1月25日(土)	令和2年2月3日(月)	令和2年2月4日(火)～ 2月12日(水) 書類必着	本学
			社会人特別入試 第Ⅲ期 (社会人入学者奨学生第二種対応)	令和2年2月17日(月)～ 2月25日(火)願書必着	令和2年2月29日(土)	令和2年3月5日(木)	令和2年3月6日(金)～ 3月13日(金) 書類必着	本学
		ありす会	ありす会特別入試 第Ⅰ期	令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	本学・札幌 國學院大學(東京)
			ありす会特別入試 第Ⅱ期	令和元年12月24日(火)～ 令和2年1月17日(金)願書必着	令和2年1月25日(土)	令和2年2月3日(月)	令和2年2月4日(火)～ 2月12日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
		法人傘下	法人傘下高校対象特別選抜入試 第Ⅰ期	令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	國學院大學(東京)
			法人傘下高校対象特別選抜入試 第Ⅱ期	令和元年12月24日(火)～ 令和2年1月17日(金)願書必着	令和2年1月25日(土)	令和2年2月3日(月)	令和2年2月4日(火)～ 2月12日(水) 書類必着	國學院大學(東京)
			法人傘下高校対象特別選抜入試 第Ⅲ期	令和2年3月2日(月)～ 3月13日(金)願書必着	令和2年3月17日(火)	令和2年3月21日(土)	令和2年3月23日(月)～ 3月27日(金) 書類必着	國學院大學(東京)
	入試方式 エントリー期間・面談日			出願期間	選考日	合格発表日	入学手続期間	選考方法
	AO入試 第Ⅰ期 (奨学金対象)			令和元年10月28日(月)～ 11月8日(金)願書必着	書類審査のため来校する 必要はありません	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～ 12月4日(水) 書類必着	書類審査
	AO入試 第Ⅱ期 (奨学金対象外)			令和元年11月18日(月)～ 11月29日(金)願書必着		令和元年12月16日(月)	令和元年12月17日(火)～ 12月25日(水) 書類必着	

入試方式			出願期間	選考日	合格発表日	入学手続期間	選考会場
國學院大學との併願型入試	併願型入試	併願型 第Ⅰ期	令和元年10月28日(月)～11月8日(金)願書必着	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)	令和元年11月26日(火)～12月4日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
		併願型 第Ⅱ期	令和元年11月18日(月)～11月29日(金)願書必着	令和元年12月7日(土)	令和元年12月16日(月)	令和元年12月17日(火)～12月25日(水) 書類必着	本学 國學院大學(東京)
		併願型 第Ⅲ期 (北海道枠含む)	令和2年2月17日(月)～2月25日(火)願書必着	國學院大學 令和2年度一般入学試験 A・B日程	令和2年3月5日(木)	令和2年3月6日(金)～3月13日(金) 書類必着	—
		併願型 第Ⅳ期 (北海道枠含む)	令和2年3月2日(月)～3月13日(金)願書必着		令和2年3月21日(土)	令和2年3月23日(月)～3月27日(金) 書類必着	—
	大学入試センター試験利用入試第Ⅰ期		令和2年2月17日(月)～2月25日(火)願書必着	令和2年 1月18日(土)・19日(日) 大学入試センター試験	令和2年3月5日(木)	令和2年3月6日(金)～3月13日(金) 書類必着	—
	大学入試センター試験利用入試第Ⅱ期		令和2年3月2日(月)～3月13日(金)願書必着		令和2年3月21日(土)	令和2年3月23日(月)～3月27日(金) 書類必着	—

北海道教員採用試験
13名二桁合格

北海道教育委員会の公立小学校教員採用試験を受験した幼児・児童教育学科児童教育コースの2年生13名が合格した。これまで短期大学部現役合格は、昨年7名、昨年5名で、今年度は学科開設以来初の二桁合格となった。

短期大学部の小学校教員養成課程は、文部科学省に認可してもらったため何度も通い、平成18年に北海道内でもいち早く開設された。

また、短期大学部から渋谷の國學院大學に編入した学生も実績をあげてきており、「昨年は道外の教員採用試験に11名合格し、昨年は、道内8名、道外9名の合格者を出している。」

きな成果につなげてきた。

授業アンケートを踏まえた
授業改善に向けて

今日、初等・中等教育のみならず高等教育においても授業改善の推進は喫緊の課題です。

文部科学省においては、「大学進学率の上昇や、高等学校における教育内容の多様化の増加も見込まれるなど、学生の興味・関心や履修歴といった大学生の質が様々な面において多様になってきています。また、他方で、大学には、時代の

変化や社会の要請に適切に対応した教育研究活動を行うことが求められるようになってきています。こうした中、各大学においては、教育の質の確保・向上のための様々な取組が進められていますが、急速な社会の変化に適切に対応するためには、引き続き教育内容・方法等の改善に積極的に取り組んでいくことが求められています。」と指摘しています。(文部科学省H P「大学における教育内

容・方法等の改善について」)

教員採用試験合格者数

令和元年11月1日現在

年 度	計	國學院短大生				國學院大學等に編入した学生			
		北海道		その他		北海道		その他	
		小学校	中・高	小学校	中・高	小学校	中・高	小学校	中・高
2014	5	0	0	0	0	2	0	2	1
2015	9	1	0	0	0	0	1	7	0
2016	6	2	0	0	0	1	0	2	1
2017	17	2	0	0	0	1	0	12	2
2018	22	2	1	2	0	6	1	9	1
2019	20	13	0	0	0	2	0	3	2

このような中、本学においてもその具現化を目指し、各年度前・後期ごとに学生に対して授業アンケートを実施するとともに、教員は「授業改善計画書」を作成し、今日期待される高等教育機関における望ましい授業の在り方を追求しています。

また、「大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み」(「大辞林」より)を「一層進めるFD(Faculty development)の実践も積み重ねています。

授業アンケートは、本学が設置する「国文学科」「総合教養学科」「幼児・児童教育学科(幼児保育コース、児童教育コース)」に所属する学生を対象とし、履修するすべての授業についてアンケート形式により調査しています。

また、授業アンケートの内容は「授業の出席率」のほか「学習行動」「自己評価」「授業評価」の三分野で構成し、それぞれの項目について5段階(注)で評価し、最終的に学生の「授業満足度」が明らかにできるようにしています。

(注) 5そう思う 4ややそう思う 3どちらとも言えない 2あまりそう思わない 1そう思わない

1 調査結果を概観すると・・・

まず、「授業の出席率」について。授業の出席率は、ほとんどの学生が80%以上ですが、70%以下、特に50%未満の学生がいますので、対象学生について日常的にきめ細かで丁寧な指導が大切であると考えます。今後とも、意図的・計画的な支援の在り方を工夫して行く必要があります。

次に、「学習行動」についてです。多くの学生が、予習・復習の実施、進路への配慮、他の授業との関連の理解、シラバスの読み込みなど積極的な授業への取り組みをしていることがうかがえます。各内容項目の平均値はおおむね4・00前後であり、学生の目的意識が高いことがうかがえます。

しかしながらインターネットや図書館の利用など「情報活用」を期待する項目においては平均値が3・58という低い値を示しており、学生の学修の仕方が消極的である状況が示されています。今後とも学生にとって活用しやすい情報環境の一層の充実を図る必要があります。

次に、「自己評価」についてです。「自己評価」の平均値は4・25前後となっており、高いレベルにあると考えられますが、「先生に授業内容を積極的に質問することがありましたか」の項目では、3・60となっており他の項目に比べ著しく低い状況にあります。今後とも、一人一人の学生が授業内容への疑問や学修課題の解決に向けより多くの発言する機会を設定するなど消極性の改善を目指す必要があるものと考えます。

2 「授業改善計画書」の充実に向けて・・・

最後に、「授業評価」についてです。

各学生は、教師の話の明確さ、機器の効果的な活用、授業雰囲気、教員による生徒への働きかけ、授業満足度などすべての項目において期待以上であるとの意識である状況が、平均値4・24以上という結果に表れていると考えます。

また、「授業満足度」では、授業に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生が88%となっています。

このことは、これまでの授業改善に向けた着実な取り組みの成果と考えることができますが、12%の学生が「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答していることから、毎年各期に実施する授業アンケート結果を踏まえ、各授業担当者が不断の授業改善に向けた具体的な対応を確実に実行していく必要があるものと考えます。

(FD委員会委員長 佐野博之)

学生による授業評価アンケート結果(2018年度後期)

科目名	全体平均	開講コード	
教員名		履修者数	
		回収数	3988

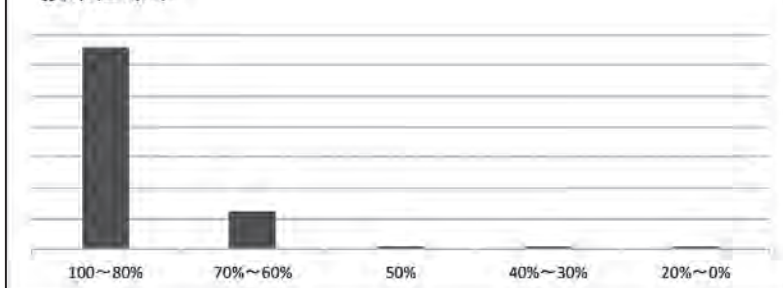
所属学年

1年	1660人
2年	1223人

所属学科

国文学科	983人
総合教養学科	1432人
幼児保育&福祉介護コース	197人
児童教育コース	272人
専攻科福祉専攻	0人

授業出席率



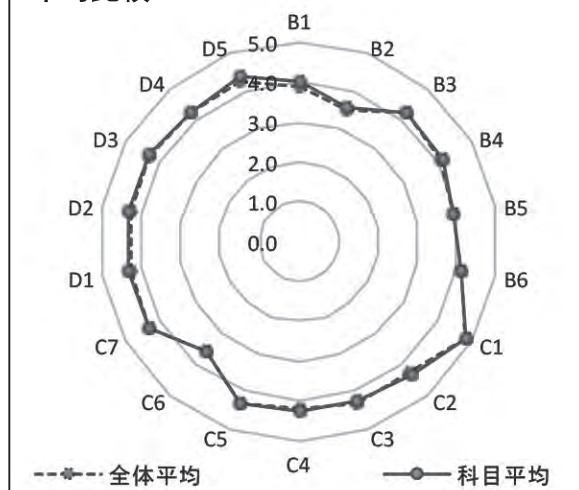
B(学習行動)	平均値	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	そう 思わない	該当 無し	有効 回答	無効 回答
1 予習&復習をするなど授業に意欲的に取り組みましたか?	4.00	1464	1532	581	226	142	0	3945	43
2 図書館やインターネットの情報を活用した学習を行いましたか?	3.58	1267	1223	678	312	301	184	3965	23
3 自身の進路に沿った学習や活動を行いましたか?	4.20	1806	1460	473	143	77	6	3965	23
4 他の授業との関連やキャリアに於ける位置づけを理解した上で、授業を受けていましたか?	4.15	1778	1396	532	164	88	10	3968	20
5 シラバスを読んだ上で、授業に臨んでいましたか?	3.95	1775	1089	535	279	266	24	3968	20
6 授業以外の時間にクラスメイトや友人同士で話し合ったりすることはありましたか?	4.15	1844	1335	462	157	143	16	3957	31

C(自己評価)	平均値	10~8割	7~5割	5割	4~3割	2~0割	該当 無し	有効 回答	無効 回答
1 この授業にどの程度出席しましたか?	4.82	3297	619	37	6	2	0	3961	27

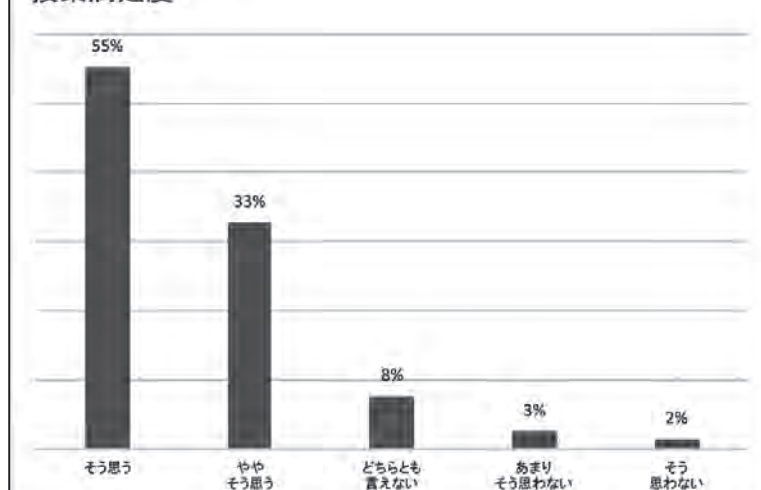
C(自己評価)	平均値	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	そう 思わない	該当 無し	有効 回答	無効 回答
2 この授業に意欲的に取り組みましたか?	4.34	2032	1460	314	118	45	3	3972	16
3 受講態度は良かったですか?	4.27	1912	1465	417	119	55	2	3970	18
4 この授業を理解できましたか?	4.25	1862	1511	396	134	60	4	3967	21
5 この授業を履修して良かったですか?	4.29	2087	1254	394	126	85	9	3955	33
6 先生に授業内容を積極的に質問することがありましたか?	3.60	1338	1084	698	361	397	78	3956	32
7 この授業を通じて、あなたの考え方・技術・知識などが向上しましたか?	4.35	2056	1398	343	92	46	5	3940	48

D(授業評価)	平均値	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	そう 思わない	該当 無し	有効 回答	無効 回答
1 先生の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか?	4.34	2107	1340	341	103	66	6	3963	25
2 参考本・テキスト・資料等の配布プリント・IT機器などは効果的に使われましたか?	4.32	2146	1290	323	92	61	46	3958	30
3 授業にふさわしい雰囲気は保たれていましたか?	4.32	2084	1320	364	130	60	4	3962	26
4 先生は学生に発言や積極的な参加を促していましたか?	4.24	2078	1232	351	157	103	40	3961	27
5 全体としてこの授業に満足できましたか?	4.37	2190	1299	307	102	60	4	3962	26

平均比較



授業満足度



設備改修計画着々実施

昨年度は、玄関ホール、床タイル及び本校舎トイレのリニューアル工事を行いました。今年は、

①体育館照明取り替え工事

体育館の照明は、水銀電灯及びナトリウム電灯を使用していました。令和二年度中に生産が終了し、今後入手が困難になることから、LED電灯に変更しました。これにより使用電力量を抑え、より

明るくなりました。
②エレベーターのリニューアル工事
本校舎で稼働しているエレベーターは、設置から三十八年を経過し、今後部品の供給が難しくなることから、リニューアルを行ないました。

モーター、ワイヤー及び地震計の更新と、内部工事を行いました。

内部は、音声案内機能や手すり及び車いす用操作盤を設置しました。

③暖房用ボイラーの入れ替え工事

第38回 ありす祭

学生会の代表としてありす祭を企画して運営する側になって、上手くいかないことが多くてやめたくなる時もありました。しかし、やり切った今、代表をやって本当に良かったと思っています。

最初は何をどう進めて良いか分からなかったのですが、スムーズに学生会を進行させることができませんでした。しかし、前代表をはじめとする先輩方や、教職員の方からアドバイスをしていただき、少しずつ上手くできるようになり、やりがいを感じて楽しんで代表をすることができました。学生会のメンバーもお互いにフォローし合い、ありす祭が近づいていくにつれてチームワークが良く

なり、一緒に頑張ることが出来たのでよかったです。

わがままで頼りがいのない、思い通りの行動ばかりする私でしたが、それでも学生会のメンバーが臨機応変に対応してついてきてくれたことにとても感謝しています。この一年間、短大という活動期間が短かったですが、学生会としての在り方や、行事運営の大変さなど多くのことを学びました。運営するからこそその充実感や、全プログラムの終わった時の達成感は今まで感じたことのない、何とも言えないものでした。

ありす祭の反省が終わりだったので、今度は次の代の学生

耐用年数が経過しており、故障した場合大きな事故につながるかねません。新しくすることにより熱効率を上げ省エネにもなります。

学生が使用する教育環境の充実を図り、より高い学習効果が望めます。



生会が始動します。彼らにしっかりと良かった点や反省の引継ぎをし、来年のありす祭をより良いものにしてもらえたらと思います。最後になりましたが、本年度ありす祭にご来場の皆様、そして協力して下さった皆様にあらためて感謝いたします。(代表 総合教養学科二年 内藤 由佳)



高等教育無償化について

九月二十日、國學院大學北海道短期大学部は、令和二年四月より開始される、「高等教育の修学支援新制度」の対象校に決定いたしました。

本制度は、住民税非課税世帯及び、それに準ずる世帯の学生を対象に、授業料の減免と給付型奨学金の支給を行う新たな制度です。世帯の所得金額に応じ、3段階と区分が分けられます。区分に応じて、減免金額・給付金額がことなります。対象学生の皆様には入学金・授業料及び給付額の金額に関しては、別途ご案内いたします。

現在の在学学生及び編入学を希望している学生も対象となります。また、継続に関しては、授業の出席状況及び学力等で学修意欲が著しく低いと判断した場合に、支援を打ち切られることもありますので注意が必要です。

本学に入学予定の新入生については、四月のオリエンテーションにて説明会を行いますので、参加して下さい。なお、高等学校で予約をされなかった学生に関しても、申し込みをすることが可能となります。その際は、対象になるかを、日本学生支援機構(JASSO)の「進学シミュレーター」を活用すれば、個別の世帯の年収等をもとに、支援の対象になるのかを大まかに調べることが出来ますので是非アクセスしてみして下さい。

令和元年度 父母会

六月十六日(日)十時より、本学開学記念館三階大会議室において令和元年度父母会総会が開催されました。

平成三十年度決算・令和元年度予算及び、基本方針の確認並びに各支部の総会日程などが承認・決定されました。

また、八月下旬から九月下旬にかけて道内七支部・道外二支部で支部総会が開催されました。総会での承認・決定された事項の説明終了後には、個人面談が行われました。

ご父母の皆さんは、遠く親元を離れ一人暮らしをしている子どもたちの短大部での生活や勉学について、ゼミナール担当教員と話をされています。

サークル紹介 アルティメットサークル

私たちは、創設三年目のサークルで、現在、男子十八人、女子八人の計二十六人で活動しています。

あまり馴染みのない「アルティメット」という競技ですが、簡単に言うとなスケットとアメフトを混ぜたようなスポーツです。一チーム七人で、バスケットのボールの代わりに「フリスビー」を使って、落とさない

ようにパスをつないで運び、アメフトのようなコートでエンドゾーンと呼ばれるゴールエリアでキャッチ出来れば得点。より多く得点できたチームが勝ちとなります。

この「究極」を意味する競技名が付けられたアルティメットは、勝敗の基準となる点数や試合時間などのルールが大会ごとに変動し、さらに審判のいないセルフジャッジ制でフェアプレーを最重要視しているのが最大の特徴です。

私たちは、十二月の「インドア」という大会を控えています。去年はあまり大会に出場しておらず、今年から他大学との練習試合を増やし、交流を深めたりなどと新しいことに挑戦してきました。これからも普及活動を含め、大会で結果を残せるように頑張っていきたいと思っています。(代表 国文学科二年 菅沼 真由子)

